

本書のねらい

本書は、国語学習の基礎・基本を着実に身につけています。

段階的な構成になっていますので、基礎から高校入試レベルまでスムーズに学習することができます。

◆本書の構成◆

準備編・読解編・言語編・入試実戦編の四編で構成しています。読解編は三章に分けており、各分野を繰り返し学習することができます。

演習問題

確認問題・基本問題よりやや難しい文章を読みます。基本的な問題や、やや手ごたえのある問題、記号問題や記述問題など、多様な問題に取り組むことで、実力アップを図ります。最後のコラムでは、単元内でどのような学習をしたか、今後どのように役立てていけるかを示しています。

※第三章のテーマ別演習は、**基本問題**→**演習問題**です。

より入試に近い形式の問題に取り組み、慣れることで、実戦力アップを図ります。

読解編

二十九単元で構成しています。第二章では、各分野の学習に入る前に、第一章の学習内容を振り返って確認することができる、「○○の確認」という単元を設けています。第三章では、第一・第二章と切り口を変え、入試頻出テーマの題材を使った問題に取り組む「テーマ別演習」の単元で構成しています。

確認問題

要点のまとめ・学習目標で、当該単元で「これから何をするか」「何ができるようになるか」を示しています。まず文章を読み、文章内の漢字・語句・文法問題を解くことによって、語彙力の底上げを図ります。次に、要点のまとめに対応する基本的な問題で学習内容の確認を行います。最後に、文章をひととおり読んで理解できているかを測る問題を設けています。

「○○を考える」という小見出しの問題は、単に漢字・語句を答えるだけでなく、自ら漢字・語句について考えていくように工夫しています。

基本問題

要点^(ア)には、確認問題での要点のまとめを補足する内容や基本問題を解くうえで参考になる事柄を記載しています。

言語編

読解編の単元数と同じ単元数です。上・中段では「漢字・語句」「文法」を、下段では「漢字の読み書き」を学習します。

漢字・語句／文法

学習のポイントを簡潔にまとめた要点のまとめの後に問題が続きます。まとめに対応する基本的な問題に加えて、入試の頻出事項を問う問題で構成しています。

漢字の読み書き

読み五問+書き五問の計十問で構成しています。読み書きともに入試頻出の漢字を出題しています。

入試実戦編

テスト形式の入試対策問題です。高校入試にどれだけ対応できるかを確認することができます。

思考力・判断力・表現力

単元20・28・29・特集(3)は、作文や意見文の記述、資料の読み取りなどの問題で構成しています。これらの問題に取り組むことで、思考力・判断力・表現力を養い、入試問題への対応力を高めることができます。

目次

言語編																		
15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	単元名	ページ	学習日	確認
單語の分類 (自立語・付属語・活用の有無)	連文節・文の成分	文節と文節の関係	文節・単語	敬語	日本語の知識・文学史	ことわざ・故事成語	慣用句(2)	慣用句(1)	類義語・対義語	三字熟語・四字熟語	熟語の構成	同訓異字・同音異義語	画数・筆順・書写	漢字の成り立ち・部首				
210	209	208	207	206	205	204	203	202	201	200	199	198	197	196				
/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/				

入試実戦編		
☆	☆	☆
頻出漢字の読み書き	入試対策問題	単元名
読解に役立つ言葉		点
238	234	225
/	/	/

準備編
問題の考え方

抜き出し問題の考え方

僕は、試合の前になると極度に緊張するタイプだった。ヒットは打てるか、エラーはしないか、とあれこれ考えては不安になるのだ。ところが田中は、そんな僕とは正反対で、試合の朝でも山盛り三杯の飯が食べられる。ような肝のすわったやつだった。今朝も、バスが球場に着くまでぐつすり眠っていた。

5

問題 「田中」はどのような人物ですか。それがわかる表現を、文章中から八字で抜き出しなさい。

解答

注意点① 字数どおりに答える

●「〇〇字以内で」とある場合、「〇〇字」を超えないれば可。ただし、少なすぎる時は不可。例えば「二十字以内で」なら、その八割以上の十六字以上を目安にして答えを抜き出す。

特に指示がない場合は、「」（）などのカッコや、？（疑問符）、ー（感嘆符）などの符号も、字数に含めて数える。

記述問題の考え方(1)

映画館に行くのは、時間もお金もかかる。だから、映画は家のテレビで見れば十分だと言う人がいる。しかし、私はそうは思わない。映画は映画館で、大きなスクリーンと優れた音響設備によって上映されることを前提に作られているのだ。

題 一線「私はそうは思わない」とあります。それはなぜですか。三十字以内で書きなさい。

解答 例映画は映画館で上映されることを前提に作られているから。〈27字〉

注意点① 字数どおりに答える

● 指定字数の八割以上でまとめる。指定字数が二十字以内→十六字以上、三
十字以内→二十四字以上、四十字以内→三十二字以上で答える。

「なぜか」と問われたら、「……から。」「どのようなことか」と問われたら「……」と、文末表現を整える。

記述問題の考え方（2）

言葉の働きといえば、書いたり話したりすることによって、エミュー二ケーンヨンをとるということが、すぐに思い浮かぶ。朝起きて「おはよう」と挨拶することから始まり、学校へ行つて友達や先生と話す、学校からのお知らせを読むなど、私たちの日常は言葉によるやり取りであふれている。しかし、言葉には、もう一つの重要な働きがある。それは、頭の中で物事を考えるときの手段となることだ。たとえば部活動で、最近部員の士気が上がらないとしよう。コンクールに登場しようか、朝練の回数を増やすとかなど、皆のやる気を引き出す方法を頭の中であれこれ考える。このときもちろん、私たちは一生懸命言葉を駆使しているはずだ。

問題 —— 線「言葉の働き」とは、どのようなことですか。四十字以内で書け
なさい。

解答
例) コミュニケーションをとつたり、頭の中で物事を考えるときの手段となつたりすること。〈40字〉

注意点④ 指示語は指示内容を明らかにして書く

文章中の言葉を使ってまとめるときは、文章中にある指示語の指示内容を明らかにして書くようとする。

注意点③ 具体例や比喩表現は、一般化してまとめる

- 一般的、抽象的な事柄をわかりやすく説明するために使われている具体例や比喩表現は、そのままでは答えとして適切でないので、一般化してまとめる必要がある。

文末を整える

上の文章の場合、二つの要素をまとめるので「たり……たり」を使う
【例】コミュニケーションをとつたり、頭の中で物事を考えるときの手段となつたりする。

注意点② 言葉を変化させてまとめる

問われていることに対応して答えられるように、語順を入れ替えたり文末

例 言葉の働きといえば……ということ
言葉には、もう一つの重要な働きがある。↑――この要素

上の文章の場合、

同じ意味のことを別の言葉で表現している場合があるので注意する。

文章中から中心となる要素を抽出する問題題材は、機会的ではあるが

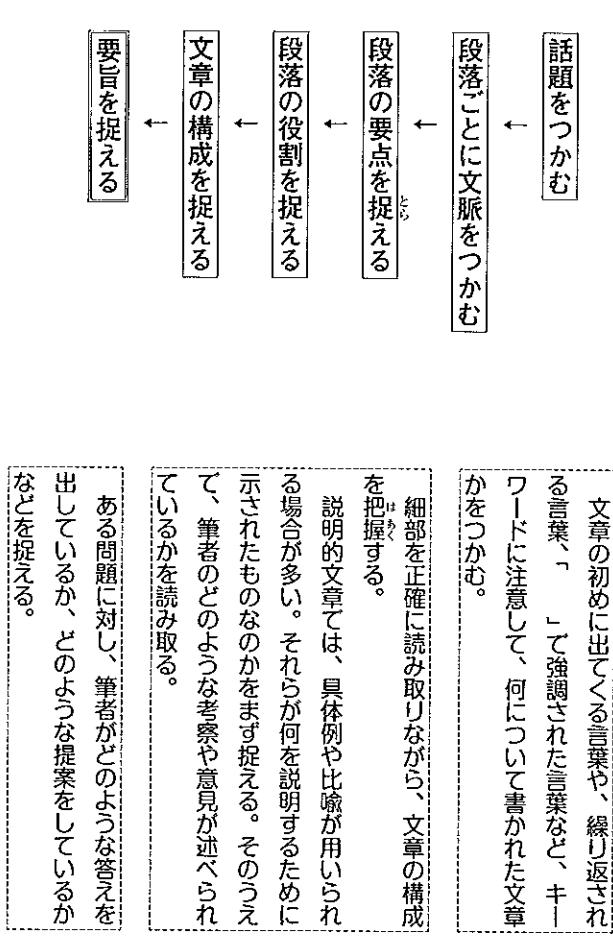
準備編 説明的文章の読み方

ある事柄について筋道を立ててわかりやすく述べた文章。大きく分けて説明文と論説文の二種類がある。

1 說明的文章

- 説明文：ある事柄について、事実にもとづいてわかりやすく説明した文章。記録文や報告文なども、説明文に含まれる。

2 説明的文章の読解の流れ



3 説明的文章の読解

文脈をつかむ

- ・指示語の指す内容を捉える。
 - ・指示語の含まれる一文から、指示語の指す内容に見当をつける。
 - ・指示語の指す内容は、指示語よりも前にあることが多い。
 - ・見当をつけた言葉を指示語の部分に当てはめて、意味が通じるかどうか確かめる。

接続語の働きと主な接続語					
順接	逆接	並立・累加	対比・選択	説明・補足	転換
前の事柄が、後の事柄の原因・理由となる。 由となる。	前の事柄とくいちがう事柄を、後で述べる。	前後の事柄に並べたり、付け加えた りする。	前後の事柄を比べたり、一方を選択したりする。	前の事柄をまとめたり、補つたりする。	前の事柄から話題を変えて、後の事柄を述べる。
例そこでだからしたがつてすると 例しかしけれども 例またそして 例さらにしかも 例あるいはまたは 例それとももしくは 例つまりなぜなら 例たゞいは 例では 例さて 例えれば 例たゞし 例いっぽう	例しかしこれども 例だがところが 例またそして 例さらにしかも 例あるいはまたは 例それとももしくは 例つまりなぜなら 例たゞいは 例たゞし 例いっぽう	例あるいはまたは 例それとももしくは 例つまりなぜなら 例たゞいは 例たゞし 例いっぽう	例あるいはまたは 例それとももしくは 例つまりなぜなら 例たゞいは 例たゞし 例いっぽう	例あるいはまたは 例それとももしくは 例つまりなぜなら 例たゞいは 例たゞし 例いっぽう	例あるいはまたは 例それとももしくは 例つまりなぜなら 例たゞいは 例たゞし 例いっぽう

理由を表す部分や言い換えられている部分を捉える。

- る場合が多い。それらが何を説明するためには示されたもののかをまず捉える。そのついで、筆者のどのような考察や意見が述べられておりかを読み取る。

理由を表す表現

- 「言い換えると」「いわば」……といえる

(2)

段落の要点を捉える
その段落で筆者が最も述べたい事柄を要点という。

① キーワードを捉える。

- 繰り返し出てくる言葉や、対比、強調されている言葉に着目する。

② 段落の初めや終わりに注意して、中心文を見つける。

- 段落の内容が端的に述べられている文を中心文という。この中心文に着目して、段落の要点を捉える。

③ 中心になる部分と、それ以外の部分（具体例や比喩、根拠、理由など）を読み分ける。

〈中心になる部分〉

- これまでの内容がまとめられている部分。

→ 「つまり」「要するに」などの接続語に着目。

- 筆者の意見が述べられている部分。

→ 「……と考へる。」「……べきだ。」などの文末表現に着目。

(3)

① 段落の初めの接続語に着目する。
② 文章全体の中で、その段落がもつ役割を考える。

【段落の役割】

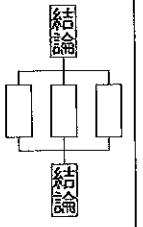
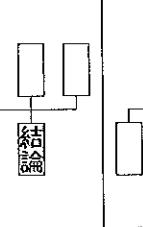
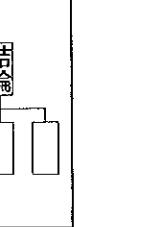
- 話題・問題を提起する。
- 前の内容の説明・理由・具体例を挙げる。
- 前の内容と対立する事柄を述べる。
- 前に述べた内容を整理したり要約したりする。
- 新しい話題を述べる。
- 文章全体を締めくくる（意見をまとめめる）。

(4)

文章の構成を捉える
意味段落を捉える。

- 内容的につながりのある段落をまとめ、文章全体をいくつかの意味段落に分ける。

② 文章の構成の基本型をもとに、文章の構成を考える。

文章の構成の基本型		
双括型	尾括型	頭括型
最初に結論を述べ、最後に結論を述べる。 最初に結論を述べ、最後に再び結論を述べる。	最初に具体的な事例や根拠などを述べ、最後に結論を述べる。	最初に結論を述べ、その後で具体的な事例や根拠などを述べる。
		

(5)

要旨を捉える

要旨とは、筆者が文章を通して述べようとしていることの中心である。

- ① 文章の初めや終わりに着目して、結論を述べている段落を捉える。
② 筆者の意見・主張を捉える。

- 序論で問題を提起している場合は、それにに対する答えを押さええる。
- 二つの事柄が対比されている場合は、筆者がどちらを重視しているかを捉える。
- 筆者の主張が明示されている文に着目する。
- 「しかし」「つまり」などの接続語の後。
- 「……と考へる。」「……べきだ。」などで終わる文。

準備編

文学的文章の読み方

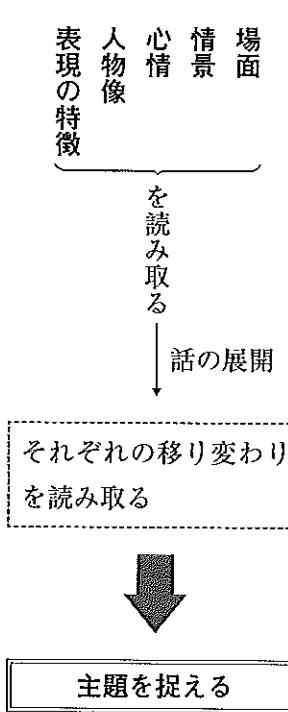
1 文学的文章とは？

あるテーマにもとづいて、想像上の出来事や筆者の体験などを描いた文章（ここでは、そのうち小説と隨筆を扱う）。

2 小説の読み解き

- 小説：出来事・事件や登場人物の生き方の中に、作者の考えを表そうとした文章。物語・フィクションという言い方をすることがある。作者は、想像によつて人物像やその人物の生きる世界を作り出し、その中に自分の考えを盛りこむ。

- 隨筆：筆者が見聞きしたことや体験したことなどについて、感じたことを思いつくままに述べた文章。隨筆の話題は、自然環境、社会情勢、人生の問題、文化・芸能など、多方面にわたる。



(1) 場面を捉える

次の要素について読み取り、場面を把握する。

【場面を構成する要素】

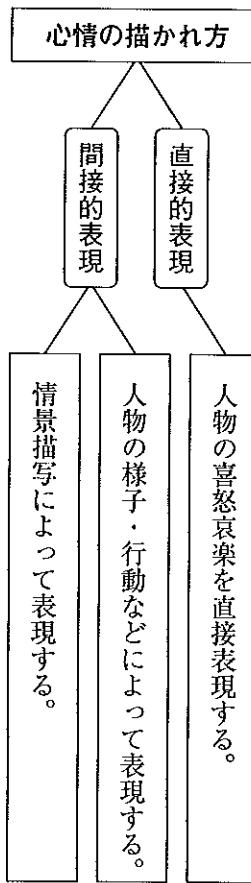
	（着眼点）
いつ（時）	時代、季節、時刻を表す言葉
どこで（場所）	場所を表す言葉
誰が（登場人物）	人物と、人物どうしの関係
どうした（出来事）	出来事と、そのきっかけ（原因）、結果

※地の文での説明だけではなく、人物の会話にも注目する。

(2) 情景・心情を捉える

情景とは、登場人物や作者の心を通して描かれる風景や場面の様子のこと。情景には、登場人物の心情が反映されていることが多い。

- 小説では、場面ごとに、情景や登場人物の心情、人物像などを押さえ、話の展開に沿つてその移り変わりを読み取り、最終的に主題を捉えることを目標とする。



小説の読み解き最も重要なのは、人物の心情の変化を読み取ることである。心情の変化には、場面の変化（時間の変化・場所の変化・人物の登退場・新たな出来事）など、必ず何かきっかけ（原因）がある。話の展開に沿つて、人物の心情がどのようにきつかけで、どのように変化したのかを読み取る。

(3) 人物像を捉える

人物像を捉えることで、その人物の行動の理由や心情もつかむことができる。次の着眼点から、人物像を捉える。

- 人物の設定：立場・境遇・性格・考え方などを押さえる。
- 他者から見た人物像：他者が、その人物についてどのように捉えているのかに注目する。

(4) 表現の特徴を捉える

工夫された表現の特徴を捉え、味わうことで、文章の理解が深まる。

【表現技法】

- 文末（常体か散体か、現在形か過去形か）
- 一文の長さ（一文が長いか短いか）
- 視点（一人称か三人称か）
- 言葉（漢語が多いか、片仮名が多いかなど）

【表現技法】

- 比喩
- 体言止め
- 反復
- 対句
- など

(5)

主題を捉える

主題とは、作者が文章を通して表現しようとしていることである。

【主題を読み取るための主な要素】

- 作品の舞台・背景や、状況・人間関係などを捉える。
- 話のやま場（クライマックス）と、やま場における登場人物の行動・心情とその変化を捉える。



登場人物（主人公）の心情、考え方、生き方に着目し、登場人物が何に心を振り動かされてどう変わったのかを押さえ、作者が文章を通して表現したかったこと（作者の心情・思想）は何かを読み取る。

感想

← それによつて

筆者独自の考え方・一般的な考え方

感想 ← 繰り返されている言葉・対比されている内容

3 隨筆の読解

(1) 題材を捉える

随筆とは、筆者の体験や見聞をもとにして、筆者が感じたことや思ったことをまとめたものである。まず、題材が何であるかを捉える。題材は、大きく二つに分けられる。

- 実際に体験したこと（直接的）：日常生活・旅行・行事など
- 見聞によるもの（間接的）：本・インターネット上の話題・他者の話など

(2) 表現の特徴を捉える

随筆では、筆者が自分の思いを効果的に伝えるために、表現に独特の工夫を凝らしている。心情表現をはじめ、一文の長さ、符号の使用、擬声語・擬態語、比喩・対句など、表現の特徴を読み取る。

(3) 主題を捉える

まず、筆者が体験した、あるいは見聞きした事実を語っている部分と、それによつて感想をまとめている部分を読み分ける。

次に、感想をまとめている部分に着目し、筆者の心の動きを読み取る。

筆者が「何について」「どう思つた（感じた）か」「なぜそう思つたか」を押さえながら、筆者の心の動きを追つていき、筆者独自のものの見方・考え方を捉えていく。

それが、文章で筆者が最も訴えたかったこと、すなわち主題に密接に結びついている。

事実

筆者が実際に体験したこと・見聞きしたこと

主題

← それによつて

< 着眼点

強調されている文末表現・筆者の価値判断が表れた表現

説明的文章(1) 指示語・接続語

要点のまとめ

● 指示語

とは?
指示語

同じ言葉の繰り返しを避け、文章を読みやすくするために使った言葉。

● 指示内容を捉える→確認する

- 最初に、指示語を含む一文の内容を確認する。
- 指示語に続く言葉と関連する内容に注目して、指している内容を捉える。

たいていの場合は、指示語よりも前の部分を指している。

図家の前に大きな建物がある。

そこには人が集まる。
指示語を含む一文

「どこ」に「人が集まる」のかを考え、指している内容を前の部分から探しします。指定字数が多い記述問題では、まず短い言葉で考え、その後、詳しく説明する修飾語(部)を付け加えていきます。

- 指示語の部分に指示内容を当てはめてみて、文意が通ることを確かめる。

確 認 問 題

- (1) 漢字・語句・文法の確認
漢字の読み書き——線⑦～⑩の漢字に読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。

▼▼▼次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

サクラは、夏にツボミをつくります。しかし、秋に花を咲かせないため

に、越冬芽をつくり、その中にツボミを包み込みます。(中略)

越冬芽は冬の寒さをしのぐためのものですから、冬の寒さが訪れる前につくられねばなりません。気温がヒクくなり、寒くなつてから急いで越冬芽をつくることができるほど、サクラの反応は鋭敏ではありません。

そのため、サクラは、冬の寒さが訪れるなどを寒くなる前にしる能力を

5

- (2) 語句の意味
線A「しのぐ」の意味を次から一つ選び、記号で答えなさい。
- （） ①（） ②（） ③（） ④（） ⑤（） ⑥（） ⑦（） ⑧（） ⑨（） ⑩（）

・指示語の働きを確認し、指示内容を捉えることができる。

・接続語の種類とそれぞれの示す接続関係がわかる。

・前後の文や段落のつながりから文脈に合う接続語がわかる。

- 接続語……文と文、段落と段落などをつなぎ、前後の関係を示すための言葉。
接続語の働き

順接	前の事柄が、後の事柄の原因・理由となる。
逆接	前の事柄と違い違う、逆の事柄を後に述べる。 しかし、ところが・けれども・だが・でも・が
並列・累加	前の事柄と関連する事柄を後に並べたり、付け加えたりする。 また・そして・それから・しかも・さらに・そのうえ
対比・選択	前の事柄と後的事柄を比較したり、一方を選択したりする。 または・あるいは・それとも・もしくは
説明・補足	前の事柄をまとめたり、補つたりする事柄を後で述べる。 つまり・すなわち・ただし・もつとも・たとえば
転換	前の事柄から話題を変える。 では・ところで・ときには

もつていなければなりません。「ほんとうに、秋の間に、サクラは冬が訪れることをしっているのか」という疑問に対する答えは、「しっている」です。では、どのようにして、サクラは冬の寒さが訪れるなどを、寒くなる前の秋にしることができるのでしょうか。

その答えは、「葉っぱが、夜の長さをはかるから」です。夜の長さは、夏から秋にだんだん長くなり、かなり大きくなっています。このことは、夕方七時ころでもまだ明るい夏に比べ、五時ころには暗くなる秋を思い浮かべると、理解できます。

でも、ほんとうに、葉っぱが夜の長さをはかるは、冬の寒さの訪れを前もつてしめることができるのでしょうか。この疑問に対する答えは、「できる」です。夜の長さは、六月下旬の夏至の日を過ぎて、だんだんと長くなりはじめます。そして、夜の長さがもつとも冬らしく長くなるのは冬至の日です。この日は、一二月の下旬です。

それに對し、冬の寒さがもつともきびしいのは二月ころです。夜の長さの変化は、冬の寒さの訪れより、約二ヶ月先行して、^Eいるのです。ですから、葉っぱが夜の長さをはかつていれば、冬の寒さの訪れを約二ヶ月先取りしてしめることができます。

だんだんと長くなる夜を感じるのは「葉っぱ」です。ところが、越冬芽がつくられるのは「芽」です。とすれば、「葉っぱ」が長くなる夜を感じて、「冬の訪れをヨチした」というしらせは、「芽」に送られねばなりません。「どのようにして、葉っぱから芽に、そのしらせは送られるのか」という疑問が浮かびます。

植物は、動物の神経のような刺激の伝達手段をもつていません。そこで、夜の長さに応じて、葉っぱが「アブシン酸」という物質をつくり、芽に送ります。芽にその物質の量が増えると、ツボミを包み込んだ越冬芽ができるのです。こうして、夏にできたツボミは、越冬芽に包み込まれて、春を待ちます。

（田中修「植物はすごい 七不思議篇」より）

ア 害が出ないよう守る イ 効果を和らげる
ウ つらいことをやり過ごす ウ 程度が上回る

- (1) 熟語を考える ～線B 「訪」を使った熟語を、□に漢字を当てはめて一つ作りなさい。
 (2) 熟語を考える ～線C 「変化します」に対する主語を、文章中から一文節で抜き出しなさい。

訪 訪

- (3) 同音異義語を考える ～線D 「浮」の総画数を、算用数字で答えなさい。

画

- (4) 主語・述語 ～線E 「先行」と同じ読み方をする熟語を、二つ以上書きなさい。

- (5) 同音異義語を考える ～線F 「先行」と同じ読み方をする熟語を、二つ以上書きなさい。

- (6) 文章内容の確認
「冬の訪れをヨチした」とあります。いつのことですか。文章中から四字で抜き出しなさい。

- (7) 指示語 ～線「この日」とあります。いつのことですか。文章中から四字で抜き出しなさい。

- (8) 文章内容の確認 この文章は何について述べたものだと考えられますか。次の□①・②に当てはまる季節を、漢字一字でそれぞれ書きなさい。

- ・サクラが にツボミをつくり、 を越す仕組み。

基 本 問 題

▽▽▽ 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

サクラは、夏にツボミをつくります。しかし、秋に花を咲かせないために、越冬芽をつくり、その中にツボミを包み込みます。（中略）

越冬芽は冬の寒さをしのぐためのものですから、冬の寒さが訪れる前につくられねばなりません。気温が低くなり、寒くなつてから急いで越冬芽をつくることができるほど、サクラの反応は鋭敏ではありません。

そのため、サクラは、冬の寒さが訪れるることを寒くなる前に知る能力をもつていなければなりません。「ほんとうに、秋の間に、サクラは冬が訪れることを知っているのか」という疑問に対する答えは、「知っています。」②、どのようにして、サクラは冬の寒さが訪れるなどを、寒くなる前の秋に知ることができるのでしょうか。

その答えは、「葉っぱが、夜の長さをはかるから」です。夜の長さは、夏から秋にだんだん長くなり、かなり大きく変化します。③このことは、夕方七時ころでもまだ明るい夏に比べ、五時ころには暗くなる秋を思い浮かべると、理解できます。

でも、ほんとうに、葉っぱが夜の長さをはかれば、冬の寒さの訪れを前15もつて知ることができるのでしょうか。この疑問に対する答えは、「できる」です。夜の長さは、六月下旬の夏至の日を過ぎて、だんだんと長くなりはじめます。そして、夜の長さがもつとも冬らしく長くなるのは冬至の日です。④この日は、一二月の下旬です。

それに対し、冬の寒さがもつともきびしいのは一月ころです。夜の長さ20の変化は、冬の寒さの訪れより、約二ヶ月先行しているのです。ですから、葉っぱが夜の長さをはかつていれば、冬の寒さの訪れを約二ヶ月先取りして知ることができます。

だんだんと長くなる夜を感じるのは「葉っぱ」です。ところが、越冬芽

- (1) 指示語 —— 線①「その中」とは、何の中ですか。次の□に当てはまる言葉を文章中から三字で抜き出しなさい。
-
- (2) 接続語 □②に当てはまる言葉を次から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア では イ つまり
ウ だから エ あるいは
- (3) 指示語 —— 線③「このこと」とは、どのようなことを指していますか。次の□④(a)～(c)に当てはまる言葉を、文章中から(a)・(b)は四字で、(c)は二字で抜き出しなさい。
- ④(a)が④(b)にかけて長くなつていき、大きく④(c)すること。

(a)

(b)

(c)

- (4) 指示語 —— 線④「それ」とは、どんなことを指していますか。「冬至」という言葉を使って、三十五字以内で書きなさい。

要忘^ヲ

指示語の記述問題の文末表現の見分け方

「○○」や「その○○」の指示内容を答える場合は、文末表現を「○○」の形で答えるをまとめる。

例このとき、私たちは気づきました。 → 「……とき」

「これ」や「それ」の内容を答える場合は、前後の文脈を踏まえて、「これ」や「それ」を「の○○」や「その○○」に置き換えて答えると、文末表現の形がわかりやすくなる。

例それは、気温のことを見落としていたからです。

その理由 → 「……理由」

がつくられるのは「芽」です。とすれば、「葉っぱ」が長くなる夜を感じて、冬の訪れを予知した」という知らせは、「芽」に送られねばなりません。「どのようにして、葉っぱから芽に、⁽⁵⁾その知らせは送られるのか」という疑問が浮かびます。

植物は、動物の神経のような刺激の伝達手段をもつていません。⁽⁶⁾そこで、夜の長さに応じて、葉っぱが「アブシシン酸」という物質をつくり、芽に送ります。芽にその物質の量が増えると、ツボミを包み込んだ越冬芽ができるのです。こうして、夏にできたツボミは、越冬芽に包み込まれて、春を待ちます。

〈田中修「植物はすごい 七不思議篇」より〉

(5) 指示語 — 線⑤「その知らせ」とは、何の知らせですか。次の□に当てはまる言葉を文章中から九字で抜き出しなさい。

□

という知らせ。

- ① (6) 接続語の働き — 線⑥「そこで」の働きを説明したものとして適切なもの
- を次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 前の事柄とは食い違う事柄を、後に述べることを示す。
イ 前の事柄をまとめた内容を、後に述べることを示す。
ウ 前の事柄に、後の事柄を付け加えて述べることを示す。
エ 前の事柄が理由で、その結果を後に述べることを示す。

□

- (7) 文章の把握 この文章の内容に合うものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 夜が長くなると、アブシシン酸という物質が芽から葉に送られる。
イ サクラの葉は、夜の長さで冬の訪れを知ることができる。
ウ サクラは、寒い冬の訪れを予知してツボミをつくりはじめる。
エ サクラのツボミは、寒い冬の間に花を咲かせる準備をしている。

□

演習問題

▼▼▼ 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

オオバコの種子は、雨などの水に濡れるとゼリー状の粘着液を出して膨張する。そして、人間の靴や動物の足にくつついで、種子が運ばれるようになつてゐるのである。タンポポが風に乗せて種子を運ぶように、オオバコは踏まれることで、種子を運ぶのである。

よく、道に沿つてどこまでもオオバコが生えているようすを見かけるが、それは、種子が車のタイヤなどについて広がっているからなのだ。

こうなると、オオバコにとつて踏まれることは、耐えることでも、克服すべきことでもない。もはや踏まれないと困るくらいまでに、踏まれることを利用しているのである。「逆境をプラスに変える」というと、「物事を良い方向に考えよう」という[※]ボジティブシンキングを思い出す人もいるかも知れない。

しかし、雑草の戦略は、そんな気休めのものではない。逆境を利用して成功するのである。たとえば、雑草が生えるような場所は、草刈りされたり、耕されたりする。ふつうに考えれば、草刈りや耕起は、植物にとつては生存を危ぶまれるような大事件である。しかし、雑草は違う。草刈りや耕起をして、茎がちぎれちぎれに切断されてしまうと、ちぎれた断片の一つ一つが根を出し、新たな芽を出して再生する。つまり、ちぎれちぎれになつたことによつて、雑草は増えてしまうのである。

③、きれいに草むしりをしたつもりでも、しばらくすると、一斉に雑草が芽を出してくることもある。じつは、地面の下には、膨大な雑草の種子が芽を出すチャンスをうかがっている。一般に種子は、暗いところで発芽をする性質を持っているものが多いが、雑草の種子は光が当たると芽を出すものが多い。草むしりをして、土がひっくり返されると、土の中に光が差し込む。光が当たるということは、ライバルとなる他の雑草が取り除かれたという合図でもある。そのため、地面の下の雑草の種子は、チャンス到来とばかりに我先にと芽

を出し始めるのである。

こうして、きれいに草取りをしたとしても、それを合図にたくさんの雑草の種子が芽を出して、結果的に雑草が増えてしまうのである。

草刈りや草むしりは、雑草を除去するための作業だから、雑草の生存にとつては逆境だが、雑草はそれを逆手に取つて、増殖してしまうのである。何というしつこい存在なのだろう。

⑤そんなしつこい雑草をなくす方法など、あるのだろうか。

じつは、一つだけ雑草をなくす方法があると言われている。それは、あらうことが「雑草をとらないこと」だという。

雑草は、草刈りや草取りなど逆境によつて繁殖する。草取りをやめてしまえば、雑草だけでなく、さまざまな植物が生えてくる。そうなると、競争に弱い雑草は、立つ瀬がない。だんだんと大きな草が生え、やがて、灌木^{（あんぼく）}が生えてくる。そして、長い年月を経て、森となつていくのである。人の手が入らなければ、いわゆる「遷移」^{（せんい）}が起るのである。競争に弱い雑草は、大型の植物や木々が生い茂る場所では、生存することができない。そして、ついに雑草はなくなってしまうのである。

本当に雑草は弱くて強い存在であり、また強くて弱い存在なのだ。

（注）ボジティブシンキング＝前向きな思考。

立つ瀬がない＝ここでは、生存する場所を失うという意味。

灌木＝背の低い木。
遷移＝繁殖している植物が他の種類の植物に移り変わつていくこと。

(1) 指示語 —— 線①「それ」が指している内容を、二十五字以内で書きなさい。

(5) 指示語 —— 線⑤「そんなしつこい雑草」とありますか、どのようなところがしつこいのですか。四十字以内で書きなさい。

(2) 接続語の働き —— 線②「たとえば」の後の内容は、どのようなことの具体例ですか。次の□に当てはまる言葉を文章中から二字で抜き出しなさい。

- ・雑草が□を利用するという戦略をとつて成功するということの具体例。

(3) 接続語 □③に当てはまる言葉を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア また イ では
ウ すると エ つまり

--

(4) 文章内容の確認 —— 線④「そのため」とは、何のためですか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 地中に光が当たることは、他の雑草が取り除かれた合図となるため。
イ 光が当たると発芽するという性質を、雑草の種子が持っているため。
ウ 草むしりをすることで、一斉に雑草が芽を出すことがあるため。
エ 地中に光が差し込むと、地中の雑草の種子が芽を出し始めるため。

--

(1) 文章の把握 この文章の内容に合うものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 雑草は草刈りや耕起で切断されても、別の雑草の栄養として吸収され

ることで新たな芽を出し生い茂ることができる。

イ 雜草を除去するために人の手が加わることでかえって雑草が繁殖する結果となり、森からさまざまな植物が失われている。

ウ 草刈りや草取りをやめると、さまざまな植物が生い茂ることになるため、

生存競争に弱い雑草は生育することが難しくなる。

エ オオバコの種子は人間や動物の足に付着して運ばれていき、その後、踏まれることで種子が発芽する仕組みになっている。

--

※ 指示語は、筆者が同じ言葉を繰り返すのを避けるために使うもの。指示語が傍線部に含まれていなくても、傍線部前後にある指示語の指している内容が設問のヒントとなっている場合が少なくありません。つねに、指示語の指している内容を考える習慣をつけましょう。

指示語が指している内容を考へる 文章の内容がわかる

2

説明的文章(2) 理由・言い換え

要点のまとめ

- **理由**：理由を説明している部分を捉えることで、筆者の主張や結論の根拠を把握することができるようになり、文章全体の理解が深まる。

理由の捉え方

理由を示す助詞

直前の内容が直後の内容の原因や理由である。

例 ……から、……ため、……ので、など

順接を示す接続語

直前の内容が直後の内容の原因や理由である。

例 だから、それで、したがって、など

理由補足を示す接続語

直後の内容が直前の内容の原因や理由である。

例 なぜなら、というのは、など

確認問題

▼▼▼ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

人類最初の時計というものは、「暦」といわれるものです。分かり易く言うとカレンダーであり、これは1日を単位とする一覧式のデジタル時計といえます。暦とは、太陽や月の動きを基準に時間の流れを測り、タイケイづけていくこと。太陽と月が基本中の基本で、何千年もの間、人間にとつては、これが時計代わりでした。

太陽と月、二つの天体の動きを基本にするということは、異なる周期をもつ現象を組み合わせる、ということでもあります。観察対象が一つでは

5

・理由と結果の関係になる文や段落ごとの接続が理解できる。

・助詞や接続語に着目して、理由の読み取りができる。

・抽象的な表現を具体的な内容に言い換えることができる。

- **言い換え表現**：同じ意味の内容が、別の言葉で言い換えられていることを捉えることで、文章の要点を理解しやすくなる。

言い換え表現の捉え方

① 「すなはち」「要するに」「つまり」の接続語に注目する。

② 「○○とは……である」、「……を○○という」という表現に注目する。

③ いくつかの部分に分けて、部分ごとに言い換えることもある。

例 かつての時間の表し方は、デジタルの時計によって無効となっている。
・かつての時間の表し方＝「たそがれ」などのあいまいな時間の表現
・無効となっている＝今は使われなくなっている

→かつてはよく使われていた「たそがれ」などのあいまいな時間の表現は、デジタルの時計の利用によって今は使われなくなっている。

漢字・語句・文法の確認 A

(1) 漢字の読み書き——線Ⓐ～Ⓑの漢字は読み仮名を書き、片仮名は漢字に直しなさい。

Ⓐ ()

Ⓑ ()

（ ） Ⓛ ()

（ ） Ⓜ ()

（ ） Ⓝ ()

（ ） Ⓞ ()

(2) 動詞～線A「言う」の活用の種類を次から一つ選び、答えなさい。

ア 上一段活用 イ 下一段活用 ウ 五段活用

エ サ行変格活用 オ カ行変格活用

時間を計るのに都合がよくないわけですね。つまり、このように時間を計るにあたっては、最小公倍数の考え方があるということになります。

素数の考え方、といつてもよいでしょう。暦の誕生は、同時に、数学のメバエでもあったのです。

また、暦は日食をはじめとする天体现象の「予言」にも必要でした。昔、暦をつくることは、天文学ではありますが「占星術」であり、政治ともほとんど直結していたといえます。古代の為政者（王）は、そのような天の変化、すなわち「天変」などを全て把握して予言し、それを民衆に知らせることによって権威を保っていたようなところがあるのです。たとえば中國では、皇帝は「時をも支配する存在」とされていました。この表現などは、暦を司ることと権力の関係を非常によく表しているといえるでしょう。暦を把握しておくことには、現実的な理由もありました。農業にとつて、いつ梅雨に入り、いつ台風が来るのか、それによつていつ川の氾濫氾濫があるのかということは、その年の収穫量を左右する非常に重要な情報であるからです。民を養っていくという意味においても、暦を知ることは非常に大切なものだったわけです。だから天文学と政治は、古代においてはほとんど一体となつていました。

「時計」は暦からスタートし、その「時計」を見ながら生活に応用していくわけですが、太陽の動きを時間観念の基本におくのは、おそらく人間だけではなく、他の動物もそうでしょう。夜行性の動物もいますし、そこに周期があることを認識していることがわかります。とにかく、太陽の動きが一番わかりやすいのです。道具が何もなくとも、太陽を見れば、朝・昼・夕方・晩、ということがわかりますから。

とはいゝ、この段階では、1日の長さや季節の移ろいはわかつても、現在、私たちが普通に認識している「1分」「1秒」という細かい時間の概念はありません。安田正美「1秒って誰が決めるの?」より

*一部省略があります。

30

(1) 熟語を考える ～～線B「誕生」のように、上下の漢字の順序を反対にしても成り立つ熟語を、二つ以上書きなさい。

(2) 文章内容の確認 この文章は何について述べたものだと考えられますか。次の□に当てはまる言葉を、文章中から一字で抜き出しなさい。

(3) 熟語を考える ～～線B「誕生」のように、上下の漢字の順序を反対にしても成り立つ熟語を、二つ以上書きなさい。

(4) 熟語を考える ～～線C「政治」の「治」には別の音読みがあります。その音読みを使った熟語が完成するように、□に当てはまる漢字を書きなさい。

治 □ 、 □ 治

(5) 語句の意味 ～～線D「把握」の意味として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 正しく理解すること。 イ 危険を回避すること。
ウ 自由に操ること。 エ うまく利用すること。

(6) 対義語 ～～線E「現実」の対義語を次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 歴史 イ 精神 ウ 将来 エ 理想

(7) 言い換え ～～線「天変」と同じ意味で使われている言葉を、文章中から四字で抜き出しなさい。

(8) 文章内容の確認 この文章は何について述べたものだと考えられますか。次の□に当てはまる言葉を、文章中から一字で抜き出しなさい。

□について。

31

基本問題

▼▼▼ 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

人類最初の時計というものは、「暦」といわれるものです。分かり易く言うとカレンダーであり、これは1日を単位とする一覧式のデジタル時計といえます。暦とは、太陽や月の動きを基準に時間の流れを測り、体系づけていくこと。太陽と月が基本中の基本で、何千年もの間、人間にとつてはこれが時計代わりでした。

太陽と月、二つの天体の動きを基本にすると、いうことは、異なる周期をもつ現象を組み合わせる、ということでもあります。観察対象が一つでは時間を計るのに都合がよくなきわけですね。つまり、このように時間を計るにあたっては、最小公倍数の考え方があるということになります。素数の考え方、といつてもよいでしょう。⁽³⁾暦の誕生は、同時に、数学の芽生えでもあつたのです。

また、暦は日食をはじめとする天体現象の「予言」にも必要でした。昔暦をつくることは、天文学ではありますが「占星術」であり、政治ともほ

は、暦を語ることと権力の関係を非常によく表しているといえるでしょう。暦を把握しておくことには、現実的な理由もありました。農業にとつて、いつ梅雨に入り、いつ台風が来るのか、それによつていつ川の氾濫があるのかということは、その年の収穫量を左右する非常に重要な情報であるからです。民を養っていくという意味においても、暦を知ることは非常に大切なものだったわけです。だから天文学と政治は、古代においてはほとんど一体となつていました。

(4) 指示語——線④「それ」が指している内容を次から一
なさい。

- (1) 内容理解——線①「暦」とはどのようなものですか。次の文の□(a)・
⑥に当てはまる言葉を、文章中から⑥は七字で、⑥は五字で抜き出しなさい。
③を基準にして、⑥を割定し、体系づけたもの。

(3) 言い換え——線③「曆の誕生は、同時に、数学の芽生えでもあった」とあります。が、「数学の芽生えでも」あるとはどういうことですか。「時間を計るにあたっては、……」に続くように、二十五字程度で書きなさい。

時間を計るにあたつては

卷之三

{}

10 of 10

2

- 1 -

1

「時計」は曆からスタートし、その「時計」を見ながら生活に応用していくわけですが、太陽の動きを時間観念の基本におくのは、おそらく人間だけではなく、他の動物もそうでしょう。夜行性の動物もいますし、そこに周期があることを認識していることがわかります。とにかく、太陽の動きが一番わかりやすいのです。道具が何もなくとも、太陽を見れば、朝・昼・夕方・晩、ということがわかりますから。

とはいって、この段階では、1日の長さや季節の移ろいはわかつても、現在、私たちが普通に認識している「1分」「1秒」という細かい時間の概念はありません。

（安田正美「1秒って誰が決めるの？」より）

※一部省略があります。

25

30

(1)

(5)

理由——線「政治ともほとんど直結していた」とあります、曆を把握することができが政治とも直結していた理由として適切なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 古代の王たちは、天の変化を把握することで時を支配できると信じていたから。

- イ 古代の王たちは、曆を把握することで梅雨に入る時期や台風の来る時期を正確に予言することができたから。

- ウ 古代の王たちは、天体现象を予言して民衆に知らせて災害を起さないための情報を保っていたから。

- エ 古代の王たちにとって、曆を把握することは、民衆を養っていくための重要な情報であったから。



(6) 理由——線⑤「太陽の動きを時間観念の基本におく」理由を説明した次の文の□に当てはまる言葉を、文章中から八字で抜き出しなさい。

- ・太陽の動きを見れば、□の変化がわかりやすいから。



(7) 文章の把握 この文章の内容に合うものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

一つ目の理由についての説明

○○という理由もあります。

二つ目の理由(=○○)についての説明

「○○だけではありません」のような表現も同様である。



- ア 昔の人は、太陽と地球の動きの関係から曆をつくり出した。
イ 夜行性の動物は、月の動きで時間や季節の変化を認識している。
ウ 何千年も昔から、人間は権力を求めて暮らしていた。

エ 古代の人間は、太陽と月の周期で時間の流れを認識していた。

演習問題

▼▼▼ 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

太陽からやつてくる光によつて、地球は温められます。これは、日なたにいると暖かく、日陰にはいると涼しくなるので、皆さんも経験しているでしょう。^① 太陽は「太陽系のストーブ」なのです。

私の中学・高校時代、教室の暖房といえばだるまストーブでした。冬の寒い日、このストーブから自分の席までの距離が暖かさを決めていました。ストーブに近ければ暖かく、遠いと寒い。ストーブは、燃料であるコークスや石炭がとざれると、途端に温度が下がっていきます。すると教室全体が寒くなつてくるので、いそいで追加燃料をくべなくてはなりません。

星の中には、こうやつて暑くなつたり寒くなつたりを繰り返す種類があり、^② 変光星と呼ばれていますが、幸いなことに太陽は極めて安定しています。そのため、現在の地球は安定した気候環境を維持できています。

しかしながら、歴史的にはそうではなかつたことがわかつていています。ストーブたる太陽の明るさは、億年という単位では、少しずつ増してきました。いまから四十六億年前、太陽系誕生の頃には、現在の八割程度の輝きしかなかつたといわれています。そうなると、地球も現在よりも寒いのが当たり前です。¹⁰

そして、最近の研究でさらに驚くべきことがわかつてきました。どうやら、地球はその表面の水をすべて凍らせてしまうほどの酷寒時代を体験してきたいのです。

こうした全地球氷結は、「スノーボール・アース」現象と呼ばれています。^③ これは、われわれが今まで考えてきた氷河期とは、全くスケールの異なる気候変動といえるでじょう。なにしろ、全地球平均気温はマイナス四十度。二十五億年前から五億年前の期間にかけて、このスノーボール・アース現象は何度か起きたとされています。いまだ木星の衛星などは、太陽から遠くて、その表面はすべて氷で覆われていますが、地球もそんな状態だったのです。

全地球氷結という状態になると、それで安定してしまう性質があります。現在の地球でも、寒冷な極地方では水が凍つて、[※] 極冠を形成しています。極冠は真っ白に輝いているために、せつかく受け取った太陽の光を宇宙空間へ反射してしまいます。だから、なんらかの原因で地球全体が寒冷化はじめ、極冠が広がりはじめる、^④ 太陽から受け取る熱量はどんどん減少します。すると地球は冷えます。そして氷がさらに拡大するという悪循環に陥ります。

じわじわと面積を拡大した極冠がある程度まで発達すると、急速にスノーボール・アースが実現し、すべての海の表面が凍つてしまふのです。いつたん、スノーボール・アースになつてしまふと、ちょっとやそつとでは抜け出すことできません。

この状態を抜け出す要因となつたのは、二酸化炭素などの温室効果ガスです。³⁵ 海があれば、大気中の二酸化炭素は、その増加分をじわじわと吸収していくことでバランスがとれます。しかし、スノーボール・アースでは、海の表面が凍結しているため、この吸収が効きません。

一方、二酸化炭素の供給源としての火山活動は続いているので、大気中の二酸化炭素は増加する一方となります。こうして、数百万年で大気成分の約一割が二酸化炭素となつた段階で、温室効果のために表面が高温になり、ある段階で海の氷が一気に融解し、^⑤ スノーボール・アースが終了します。その後の全球平均の表面温度は、逆にプラス六十度の酷暑となるのです。スノーボール・アースとなつて、温暖な地球に戻るまでの時間は、数百万年から一千万年といわれています。

現在の太陽の光量は、スノーボール・アース現象が起きた時代に比べて一〇二割増加しているので、再び地球全体が凍結する可能性は低いので安心してください。多少の気候変動はあつたとしても、平均的には温暖で安定な時期と思われており、せいぜい氷河期が来る程度でしょう。

（注）¹⁵ 「面白いほど宇宙がわかる15の言葉」より

※一部省略があります。

（注）¹⁵ 極冠は氷に覆われた高緯度の地域。

- (4) 理由——線④「太陽から受け取る熱量はどんどん減少します」とあります
が、その理由を説明した、次の文の□①・②に当てはまる言葉を、文
章中からそれぞれ二字で抜き出しなさい。

■ 真っ白に輝く□③が、受け取った太陽の光を宇宙空間へ□⑤してしま
うから。

(1) 言い換え——線①「太陽は『太陽系のストーブ』」とたとえていませんが

地球などの惑星をたとえた表現を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 石炭 イ 教室 ウ 座席 エ 目なた

(2) 言い換え——線②「変光星」とは、どのような星ですか。二十字以内で書きなさい。

Table 1. The effect of the number of clusters on the classification accuracy.

(3) 言い換え——線③「『スノーボール・アース』現象」とは、どのような現象ですか。二十字以内で書きなさい。

象ですか。二十字以内で書きなさい。

ANSWER

(4) 理由——線④「太陽から受け取る熱量はどんどん減少します」とあります
が、その理由を説明した、次の文の□①・②に当てはまる言葉を、文

真っ白に輝く□⁽⁴⁾が、受け取った太陽の光を宇宙空間へ□⁽⁵⁾してしまふから。

(a)
(b)

b

理由と結果の関係を見抜けば、話の大筋がわかる

(5) 理由——線⑤「スノーボール・アースが終了します」とありますが、そ

の理由として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 大気中の二酸化炭素を海水が吸収することで、凍りついた海の表面温度
が上昇して海の氷が解けるから。

イ 海水に吸收されていた二酸化炭素が火山の供給源となることで、酷暑を

引き起こし海の氷が解けるから。

ウ 火山の活動で海に吸収されていた二酸化炭素が大気中に放出されることで、海水温度が上がり海の氷が解けるから。

工 火山活動で増加した大気中の二酸化炭素による温室効果のため、地球の表面が高溫になつて海の氷が解けるから。

1

(6) 文章の把握 この文章の内容に合うものを次から一つ選び、記号で答えなさい

ア 地球は今から約二十五億年前から五億年ほどの期間、平均気温がマイナ

ス四十度という酷寒時代を迎えた。

イ 四十六億年前の太陽は現在と比べて約八割程度の明るさだったため、地球は木星の衛星と同じ環境であった。

ウ　スノーボール・アース現象が終了した後、平均の表面温度は六十度とな

工　太陽から供給される二酸化炭素などの温室効果ガスの増加のおかげで、現在の地球が凍結するとは考えにくい。

1

説明的文章は、ある事柄や主張について、根拠を述べて説明した文章です。つまり、理由と結果の関係で、伝えたいことを順に説明していくといえます。文章の要点を読み飛ばさないために、因果関係に注意して文章を読む習慣をつけましょう。